

2022 年度

事業報告書

自 2022 年 4 月 1 日

至 2023 年 3 月 31 日

社会福祉法人 えのき会

京都市伏見区桃山町山ノ下 4 4 番地 8

社会福祉法人えのき会 2022 年度事業報告

1. 役員の状況

【理 事】 理事 6 名 監事 2 名

役職名	氏 名	任 期
理事長	古川 木子	2021 年 6 月 10 日～2023 年度定時評議員会終結時
常務理事	村上 高久	2021 年 6 月 10 日～2023 年度定時評議員会終結時
理事	渡辺 登志子	2021 年 6 月 10 日～2023 年度定時評議員会終結時
理事	岸本 栄嗣	2021 年 6 月 10 日～2023 年度定時評議員会終結時
理事	西村 清忠	2021 年 6 月 10 日～2023 年度定時評議員会終結時
理事	岡 千栄子	2022 年 7 月 1 日～2023 年定時評議員会終結時
監事	橋本 雅寛	2021 年 6 月 10 日～2023 年度定時評議員会終結時
監事	荻原 卓司	2021 年 6 月 10 日～2023 年度定時評議員会終結時

【評 議 員】 評議員 7 名

評議員	小林 幸次郎	2021 年 6 月 10 日～2025 年度定時評議員会終結時
評議員	小山 敏枝	2021 年 6 月 10 日～2025 年度定時評議員会終結時
評議員	田中 聖	2021 年 6 月 10 日～2025 年度定時評議員会終結時
評議員	下山 さゑ子	2021 年 6 月 10 日～2025 年度定時評議員会終結時
評議員	三矢 由貴子	2021 年 6 月 10 日～2025 年度定時評議員会終結時
評議員	木村 幸絵	2021 年 6 月 10 日～2025 年度定時評議員会終結時
評議員	田中 美子	2022 年 7 月 1 日～2025 年度定時評議員会終結時

【評議員選任・解任委員】

選解委員	高橋 陽子	2021 年 6 月 17 日～2024 年度定時評議員会終結時
選解委員	橋本 雅寛	2021 年 6 月 17 日～2024 年度定時評議員会終結時
選解委員	西山 竜	2020 年 6 月 29 日～2024 年度定時評議員会終結時

【第三者苦情解決委員】

苦情解決	立岩 真也	2021 年 6 月 10 日～2023 年度定時評議員会終結時
苦情解決	土田 文子	2021 年 6 月 10 日～2023 年度定時評議員会終結時

2. 理事会の開催状況

2022年度第1回理事会

開催年月日：2022年5月25日 14時00分～14時35分

開催場所 さくらの家西町 3階研修センター

京都市伏見区西町8番地

出席者氏名

理事 古川末子、村上高久（統括部長兼務）

渡辺登志子、清水千賀子、西村清忠、岸本栄嗣（オンライン出席）

（理事総数6名）／全員出席

監事 荻原卓司

橋本雅寛

事務局 村上高久

西山竜（議事録作成）

決議事項 第1号議案 2021年度事業報告について

第2号議案 2021年収支決算報告（案）について

（社会福祉充実残高算定結果の報告を含む）

監事監査報告

第3号議案 理事の退任に伴う後任候補者の選任について

第4号議案 評議員の退任に伴う後任候補者の選任について

第5号議案 評議員選任・解任委員会の招集について

第6号議案 定時評議員会の招集について

2022年度第2回理事会

開催年月日：2022年6月24日 14時00分～14時10分

開催場所 さくらの家西町 3階研修センター

出席者氏名

理事 古川末子、村上高久（統括部長兼務）

渡辺登志子、西村清忠、岸本栄嗣

（理事総数6名のうち5名出席）

欠席：清水千賀子

監事 荻原卓司（オンライン出席）

橋本雅寛

理事後任者 岡千栄子

事務局 村上高久

西山竜（議事録作成）

決議事項 清水執行役員の後任について

報告事項 虐待防止のための指針について

虐待防止に係る検討委員会の設置について

清水理事の後任理事の紹介

2022年度第3回理事会（書面決議）

理事会の決議があったものとみなされた日：2022年7月3日

第1号議案 執行役員の選任について

2022年度第4回理事会

開催日時 2022年10月13日 14時00分～15時06分

開催場所 さくらの家西町 3階研修センター

出席者氏名 古川末子、村上高久（統括部長兼務）、渡辺登志子、西村清忠、
岸本栄嗣、岡千栄子

（理事総数6名）／全員出席

監事 荻原卓司

橋本雅寛

事務局 村上高久

西山竜（議事録）

報告事項 職務執行理事から職務執行状況について

2022年度第5回理事会

開催日時 2023年3月20日 14時00分～

開催場所 さくらの家西町 3階研修センター

出席者氏名 古川末子、村上高久（統括部長兼務）、渡辺登志子、西村清忠、
岸本栄嗣、岡千栄子

（理事総数6名）／全員出席

監事 荻原卓司

橋本雅寛

事務局 村上高久

西山竜（議事録）

報告事項 第1号議案 2022年度補正予算案

第2号議案 2023年度事業計画案

第3号議案 2023年度予算案

第4号議案 管理職人事について

第5号議案 評議員会の招集について

報告事項 虐待認定について 職務執行理事から職務執行状況について
コンサルティング（組織課題解決に向けたプロジェクト）報告

3. 評議員会の開催状況

2022年度定時評議員会

開催日時 2022年6月7日 14時00分～14時38分

開催場所 さくらの家西町 3階会議室

出席者 小林幸次郎、下山さゑ子、小山敏江、田中聖、岡千栄子、三矢由貴子

(総数 7 名 / 6 名出席)

欠席：木村幸絵

質疑応答者・報告 古川理事長
村上統括部長

議事録作成 事務局 西山竜

決議事項 第 1 号議案 2021 年度収支決算報告について
(社会福祉充実残高算定結果の報告含む)
監事監査報告

第 2 号議案 理事の選任について

報告事項 2021 年度事業報告 評議員の選任について

2022 年度第 2 回評議員会

開催日時 2023 年 3 月 27 日 14 時～

開催場所 さくらの家西町 3 階研修センター

出席者 小林幸次郎、下山さゑ子、小山敏江、田中聖、岡千栄子、三矢由貴子
(総数 7 名 / 6 名出席)

欠席：木村幸絵

質疑応答者・報告 古川理事長
村上統括部長

議事録作成 事務局 西山竜

決議事項 第 1 号議案 2022 年度補正予算について
第 2 号議案 2023 年度事業計画について
第 3 号議案 2023 年度予算について

報告事項 虐待認定について 管理職人事について
コンサルティング(組織課題解決に向けたプロジェクト) 報告

4. 法人会議・職員研修報告

◇法人会議

- ・執行役員会(水曜会) 全 11 回開催 理事長・執行役員理事・統括部長・所長・副所長
2022 年 4/20、5/18、6/15、7/13、9/14、10/5、11/9、12/7
2023 年 1/26、2/15、3/10
- ・事業運営会議(毎月) 統括部長・所長・主任等の事業管理者会議
- ・法人合同職員会議(6 月、3 月)
- ・虐待防止委員会(年 3 回) 森下委員長 他 4 名
- ・働きやすさ委員会(年 6 回) 森下委員長 他 5 名
- ・マニュアル編集委員会(年 6 回) 高尾委員長 他 8 名
- ・リスク対策委員会(毎月) 奥村委員長 他 5 名
- ・研修委員会(年 4 回) 平井委員長 他 5 名
- ・支援計画学習委員会(年 7 回) 清水委員長 他 3 名

◇職員研修会

第一回 法人研修会

日 時：2022年6月5日 10：00～12：00

場 所：えのき研修センター

内 容 「対人援助技術研修」

グループワーク。支援や自身の立ち振る舞いについて、自分自身を振り返り、また、他の職員の意見、支援方法等を共有する機会とする。

講 師： 京都芸術大学 准教授 岸本 栄嗣氏

参加人数：43名

第二回 法人研修会

日 時：2023年3月12日（日）9：30～12：00

場 所：桃山東文化ホール

内 容 「虐待防止・権利擁護研修」

グループワークを通して権利擁護について学ぶ。支援や立ち振る舞いについて、自分自身を振り返り、また、他の職員の意見、支援方法等を共有し、今後の支援に活かせる機会とする。

講 師：京都芸術大学 准教授 岸本 栄嗣氏

参加人数：57名

◇安全運転講座

「交通事故の発生状況と危険予測」

京都府下の交通事故発生状況と映像を用いての危険予測

日 時：2022年3月12日（日）16：30～17：30

参加者：16名（公用車運転業務従事者）

講 師：安全運転管理者 西山主任

◇普通救命救急講習会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため未開催

◇2022年採用新任職員研修

日 時：2023年 2/6、3/1、16、27、31日の合計5日間

参加者：新規学卒者4名＋中途採用者4名

内 容：人事制度（キャリアパス）、法人の沿革と基本理念、要ブウ予防、介護研修、就業規則、プライバシー保護、個人情報の取り扱い、えのき会倫理綱領、行動規範、車椅子・固定リフト操作、摂食・嚥下の基礎知識、社会人マナー等

講 師：古川理事長、村上統括部長、奥村所長、平井所長、森下所長、高尾所長、西山主任

◇採用について

採用者数と退職者数 2022.4.2～2023.4.1

職種別

職種	採用者数	退職者数
生活支援員	11（新卒：4 既卒：7）	6
看護師	1	1
世話人	1	1
運転手	1	1
調理員	1	1
事務員	2	1

雇用形態別

雇用形態	採用者数	退職者数	2021/4/1 職員数
常勤職員	14	8	68
非常勤職員	1	0	13
嘱託職員（常勤）	0	0	3
嘱託職員（非常勤）	2	3	5
合計	17	11	89

*退職者のうち、3名は契約期間満了に伴う退職

新卒採用では前年度に比べ学生の動き出しも遅かった。2月の学情のフェア、3月の福祉就職フェアともに来場者数は昨年より少なく、福祉に就職したいと意思を固めている学生よりも業界研究としての来場者が多かった。

昨年と同様、コロナ禍での採用活動だったが、感染症予防を徹底したうえで施設見学の受け入れは基本的には対面で行い、少人数での実施とした。前年度に比べ見学者は少なかったものの、見学から選考への移行率は高かった。関係機関へのコンタクトについては、大学や専門学校への訪問を増やし、就職担当者との関係づくりにも力を入れた。また、他法人の採用担当者とも積極的につながりを持ち、選考過程や実習、入職後の配置など他法人の取り組みを学ぶ機会となった。

既卒採用については、ジョブパーク求職担当者へ挨拶に回り就職説明会にも積極的に参加。事務職含む11名の採用につながった。

採用経路としては、新卒既卒ともに就職サイトからの応募は少なくなっており、就職説明会や、ハローワーク等の対面接触からの繋がりが多くなっている。

職員の退職に関しては、離職率が9.30%（昨年度13.25%）。早期退職者は前年に比べると減少しているが男性職員の退職が続いており、体調を崩す職員も継続している。

5. 法人本部報告

◇ 2020年1月に日本で最初のコロナ感染者が確認されてから3年以上が経過するが、感染は収束することなく、2022年、第6波、7波、8波と呼ばれた時期は、感染者が急増した。この感染の拡大に伴い、当法人のデイサービス（生活介護事業）の利用者、職員にも感染が増えていく状況となった。更なる感染の拡大を防ぐために、自主的に3日間、事業閉鎖を行った。この結果、感染

の拡大は抑えられた。

また、グループホーム（共同生活援助）の入居者にも陽性者がでたため、生活介護事業に所属する看護師チームに応援を要請し、この状況を乗り越えた。コロナ禍という緊急性、専門性が問われるなかの福祉支援は、日常の介護力よりさらに、高度なスキルが必要とされる。看護師や所属長たちの行動をそばで観ることで、学ぶ事も多々あったのではないか。これらの経験を今後活かしてもらいたい。

◇決算の内訳からコロナ禍で自粛や欠席が多くあり、普段通りの活動ができなかったことで、大きく収入減となると予測していたが、コロナ禍でさまざまな支援金や補助金があったことや、2023年1月以降は、コロナ感染も落ち着いた状況になったことで、収入減にならずに安どしている。

ただ、京都市重度障害者等利用事業所支援事業補助金の金額が年々減になっている。これを職員の人件費（賞与）に充てている法人としては、素直に受け入れることができない。世間一般の賃金からみれば福祉職の低さは誰もが認めるところだが、介護報酬の根本的な改定や、それに代わる手当を示すこともなく、補助金をカットするだけでは、福祉で働く人を切り捨てることになるのではないか。人材を募集しても、なかなか応募がない状況が続いていることも、福祉の現場をさらに追い込むことにも繋がっていく、再考を求めたい。

◇グループホーム（共同生活援助）のなかで、職員の利用者への虐待（ネグレクト）案件があった。京都市にも即報告、法人内でも虐待に関する研修等を積みかさね、再発防止に向けて取り組んでいる。

＝共生社会に向けて＝

◇フードドライブの継続

地域の中で社会福祉法人が果たす役割として、当法人は、これまで4回のフードバンクを行ってきた。これを子ども食堂に繋げてもらっていることが、食品を提供する側の励みとなっている。こども食堂が7300ヵ所もできていることが、国の制度の不備からきていることを思うと複雑ではある。地域の子どもたちが、少しでも飢えをしのぐことができるなら止める理由はない。これからも多く方の協力をいただいて、こども食堂につなげていきたい。

◇試みに、集まった不用品を持ち寄り、さくらの家の前で「0円ショップ」を開催。初めての試みではあるが道行く人が好奇心から寄って見ていってくれ、ほぼ物品は捌けた。コロナ感染が終息していけば、地域との関係を深める取組を進めることが必要である。

生活介護事業 事業報告

【総括】

生活介護の活動拠点が3つの事業所に分かれて2年目となり、それぞれの事業所の特性を土台に日中の過ごしの実質化に向けて取り組んできた。課題として常にあったのは、3つの事業所間での関わりや円滑な情報共有の確立の部分であり、今期は各事業所のリーダーが中心となり、月に1回は事業所をZOOMで繋げ、合同朝の会の実施や1月には合同で成人式レクリエーションをおこなった。朝の会を行うだけではなく、ZOOMを通じて楽しめる内容を検討し、それに向けて各事業所で準備をすることを楽しむことも活動としておこなうことができた。情報共有の面では各事業所のミーティング記録をそれぞれが閲覧することで、課題共有に努めるようにしている。しかし、事業所が分かれていることで、1つの事業所のみに通所している利用者は関われる職員が限定され、土曜日や祝日の支援が柔軟に対応することができなくなっている現状がある。

また、コロナ禍の影響が継続しており、9月にはコロナ感染の拡大を懸念し、生活介護の営業を自粛することもあった。施設の玄関での体温測定や手指のアルコール消毒を定着させ、感染防止対策を定着化させるために意識して取り組んだ1年であった。コロナ感染症が5類感染症に変更されるに伴い、徐々に戸外への外出や感触活動等の取り組みも増やしていきたい。

榎の家 事業報告

【総括】

活動面においては、今期からボランティアの受け入れ規定を整え、新たなボランティアさんに来ていただき、ギター演奏が1つの活動として定着するようになった。また、園芸活動や染め物にも力を入れて取り組むことができた1年であった。「利用者に応じた個別活動」では、なかなか過ごしに広がりができなかったが、全体での取り組み内容を充実化させることで、利用者のペースで参加することを大事にしながら、少しずつ楽しめることを模索することに繋がってきている。しかし、活動開始時間が遅いことや個々の職員と利用者との間で積み重ねた情報が全体に共有できていない等の課題がまだまだ残っている。普段から活動を割り振りしていく存在を明確にし、その職員を中心に協力していくこと、また活動することを通じて、利用者の特性を生かせるような関わり方や利用者が楽しめることを考えながら支援することの大切さを意識し、ミーティング時や一日の振り返り時間に情報交換をする機会を設け職員間で共有していきたい。

職員体制については、精神面・体調面の不調、家庭での事情があり、欠勤する職員が一定数みられ、安定した職員配置が難しい状況もあった。年度途中で新規職員の受け入れもあり、普段の支援にプラスして職員育成に力を入れて業務に就くことも多かったが、中途採用職員が徐々に介助に慣れてきていることもあり、安定した職員配置に繋がりはある。

職員育成に関しては、新任職員はリーダーとのヒアリング時間を意識的に設け、振り返りやフィードバックの時間をつくることで育成状況や本人の状態を把握し、主任・リーダーミーティング時に所長、主任、リーダーで確認しあい、状況の共有や次の計画へ繋げることができている。ただ、中堅職員の育成やチーム作りという点では、職員体制が不安定の中では進まず、今後の課題として取り組んでいきたい。

虐待防止、権利擁護に関して、ミーティング時に意見交換をおこない、普段の業務の中で自分が感じること、疑問に思うこと等を伝えあうことで再度支援の見直しや改善に向けての議論をすることができた。議論だけに終わらず、できる対策をおこなっていくこと、また今後も意見交換する機会を設け風通しのよい職場

創りを心掛けていきたい。

1. 職員体制

所長 1 名 サービス管理責任者 1 名 看護師：常勤 1 名・非常勤 3 名（兼務）

支援職員一日平均 14.4 名以上（生活支援員 13.1 人 看護師 1.3 人）

（基準上の必要職員数 9.9 名：看護師含む）

事務員 1 名（兼務） 運転手 1 名 栄養士 1 名 調理員 1 名 医師 1 名（嘱託）

2. 利用状況 登録名 47 名（3 月末）男性 18 名 女性 29 名

年間開所日数 292 日 年間延べ利用者数 4,654 名（昨年 4,545 一昨年 4,817）

一日平均利用者数 16 名（昨年 16.6 名 一昨年 16.6 名）

3. 主な活動

1) 外出先

- ・事業所周辺散歩 適宜
- ・北堀公園
- ・醍醐図書館

2) 主なレクリエーション活動

- ・園芸・音楽療法・誕生日会・アルミ缶リサイクル・スノーズレン
- ・季節に応じたイベント・ピアノライブ・ギターライブ・朗読会等

3) 避難訓練 11 月参加者 30 名（内、職員 17 名）

3 月参加者 38 名（内、職員 20 名）

4. アクシデント

- ・与薬関連 3 件
- ・私物取り扱い・物品管理 10 件
- ・紛失・物品破損 8 件
- ・他傷 8 件
- ・送迎 1 件
- ・その他 5 件（口腔ケアを失念する、発作に気づかなかった等）

以上 35 件

※昨年度より 6 件の増加。利用者の荷物の持ち帰り忘れ等の物品管理が 10 件と一番多く、帰る前の時間帯に余裕をもって準備ができるように活動の時間等の検討をおこなっている。また、利用者の私物が劣化によりヒビが入る、ファスナーが壊れる等の破損も多くみられた。

また、職員がお昼の休憩等で入れ替わる時間帯や帰る前の送迎準備等で職員数が少なくなる時間帯に、利用者が他の利用者を掴んでしまう等の他傷がみられることが多かった。手薄な時間帯は担当利用者にこだわらず、全職員が全体を見るようにする必要があることをミーティング時には周知している。

さくらの家 事業報告

【総 括】

さくらの家の分室が開所して二年目を迎え、さくらは医療的ケアが必要な重度の方が、西町は自力移動の可能な方が多く通所されるなど、利用者に沿った過ごし場所が定着し、職員との関わりや取り組みを通じて利用者の笑顔が増え、安定した過ごしに繋がりがつつある。更なる過ごしを充実させるために、来年度に向けて日々の関わりや取り組み内容を発展させていきたい。

『主たる事業所』

医療的ケアの必要な利用者が多く、看護師が中心となって支援を実施を行った。生活支援員は看護師と連携を取りながら、ほぼ固定された配置で入浴介助や活動の介助にも入り日々の業務に努めている。また、医療的ケアを実施していくにあたって関係機関との連携や、主治医との連携を滞りなくできた。

ニーズの高い入浴に関しては、コロナ禍でもあったが、複数で入浴に入る際は、換気を徹底しながら入浴実施した。人数が多い時は、流れ作業的になってしまう事もあるので利用者との会話を楽しみながら実施した。入浴の利用頻度が増えているので、定期的にお風呂場のメンテナンスを確立していきたい。

活動に関しては、年間行事と毎月の行事ともに計画的に行えたのではないかと。ただ、当日の職員の動きが定まっておらず、役割が明確になっていなかったこともあり、次回からは当日の役割も明確にしていくようにする。事前準備が職員間で連携取れずにギリギリの準備だったこともあり、次年度は職員の準備負担も考慮していきたい。

天候の良い時は散歩も取り入れ、クリスマスシーズンでは、ショッピングセンターにツリーを見に行った。読書が定着化されてきている事もあり、マンツーマンだけでなく当日、通所している利用者と読書会をすることも実施できた。課題として、ストレッチとの時間を毎日作る事は難しかったが、ラジオ体操、流行りのダンスの曲を取り入れて身体を動かす時間も設けられた。

『従たる事業所・西町』

利用者の障害特性や行動パターンを把握し、その人らしく楽しめる事に重点を置き、個々の利用者の様子に応じて関わり、支援してきた1年であった。

活動面に関しては個々のニーズや利用者同士の関係性に留意し、活動空間を考慮し、落ち着いて過ごせることに重点をおき対応した。コロナ禍による制限や自粛はあるものの、ニーズに応じて選択制の創作活動や本読み、イベント（夏祭り、合同運動会、ハロウィン等）にも力を入れて取り組み、四季に応じて夏場のプール遊び、春や秋には公園やドライブ等の気分転換に繋がる取り組みも実施できた。

利用者の身体機能や生活能力の維持に努めるため、リハビリ通院同行に取り組んだ。そうした活動から得られた情報を活用し、日中活動に取り入れていきたい。また、まだ取り組めていない利用者にも、そういった機会を検討していきたい。コロナ禍の影響で積極的に実施することができていないなか、事業所で集めたベルマークを地域の学校に届けることができた。更に地域貢献に関しても、取り組みの幅を増やしていけるように検討していく。

職員育成に関しては、コロナ禍の影響で数少ない外部派遣研修の機会や法人研修を利用し、チームによるOJTを心がけ、それぞれの知識のスキルアップや障害特性の理解に繋げている。これからも週に1回のミーティングを継続させ、職員同士が意見を交換し、改善案を出し合い、試行錯誤

することで、利用者にとってより生活の質が向上できるように努めていく。

1. 職員体制

所長 1 名 副所長 1 名 サービス管理責任者 1 名 看護師：短時間職員 1 名・非常勤 3 名（兼務）
支援職員一日 13.5 名以上（生活支援員 11.2 人 看護師 2.3 人）

（基準上の必要職員数 7 名；看護師含む）

事務員 1 名（常勤） 運転手 1 名 栄養士 2 名 医師 1 名（嘱託）

2. 利用状況

登録 37 名（3 月末） 男性 13 名 女性 24 名

年間開所日数 243 日 年間延べ利用者数 4,230 名（昨年 4,147 一昨年 2,856 名）

一日平均利用者数 17.4 名（昨年 17.2 名、一昨年 11.9 名）

3. 主な活動

1) 外出先

『従たる事業所・西町』

5 月 北堀公園

6 月 藤森神社 紫陽花苑観賞

10 月 北堀公園・桃山城

12 月 みやこめっせ 芸術祭観賞

2) 主なレクリエーション活動

『従たる事業所・西町』

- ・紙すき・音楽療法・アルミ缶リサイクル・創作活動・季節に応じたイベントレクリエーション
- ・テラスでの水遊び

3) 避難訓練

『主たる事業所』

10 月実施 参加者 9 名（内、職員 11 名）

3 月実施 参加者 10 名（内、職員 13 名）

『従たる事業所・西町』

10 月実施 参加者 8 名（内、職員 9 名）

3 月実施 参加者 9 名（内、職員 8 名）

4. アクシデント

『主たる事業所』

- ・医療的ケア 3 件（注入もれ・注入物こぼし）
 - ・送迎 3 件（見落とし、乗せ忘れ、送り順間違い）
 - ・連絡調整 1 件（通所キャンセル把握間違い）
 - ・物品管理 8 件（私物破損 3 件、持ち帰り忘れ 1 件、私物管理 3 件、備品破損）
 - ・介護 4 件（怪我 2 件口腔ケアかまれる・パーテーション転倒、他 2 件）
 - ・人権 1 件（トイレをあけてしまう）
- 以上 20 件

※医療的ケアではコネクターの破損に気が付かずに途中で注入が漏れていたことがあった。その

後は、滴下の確認を行う際、漏れていないかも合わせて確認をするように行った。調整関係では、調整表を確認していればミスも起こることもなかったような内容であり、送迎時には調整表の確認、添乗者とも確認をして送迎業務に努めた。

私物管理のアクシデントが多く、その中でも、利用者の歯ブラシを間違えて磨いてしまう事が立て続けに2回起きた。再発として、口腔ケアを行う際に、点呼を必ず行うように徹底した。その後は、同じようなことは起きていない。口腔ケア時に、障害特性から、口の中に物を入れてしまうと反射的に嘔むような動きになる方への介助方法を誤って指を嘔まれてしまう事があった。幸い大きな事故につながることはなかったが、引き続き、引継ぎを徹底していきたい。

事業所のアクシデントとして、業務終了後の戸締り、エアコンの消し忘れが多かった。再発防止策として模索中ではあるが、常勤職員には、声掛けの徹底を必須としていきたい。

『従たる事業所・西町』

- ・怪我 7 件（転倒 3 件、他傷 4 件）
- ・物損 4 件（預かりの食器を割ってしまう）
- ・物品管理 3 件（返却忘れ等）
- ・その他 1 件（活動中に利用者が紙粘土を口に入れられ、歯ブラシで除去する） 以上 15 件

*転倒、他傷による怪我が 7 件あるが、大きなアクシデントは発生していない。しかし、同じ利用者による他傷が 3 件あり、利用者の行動特性を理解できていなかったことが背景要因に挙げられる。利用者同士の関係性による転倒もあり、活動環境面や障害特性を職員へ周知し、再発防止に努める必要がある。また、事業所間での荷物移動等には常にインシデントがあがる状態が続いていた。再度職員同士で確認し合い、混乱を防いでいきたい。

共通事項.

1. 主な派遣研修・会議等

- ・職員会議（2 回／年）
- ・法人研修（6 月・3 月）

2. 利用時間

◇榎の家 月曜日～土曜日（年末年始・お盆・祝日を除く 9 時 40 分～15 時 40 分）

◇さくらの家 月曜日～金曜日（年末年始・お盆・祝日を除く 9 時 40 分～15 時 40 分）

3. 一日の予定

送迎→到着(9:40)→朝の会→午前の活動→昼食・休憩→午後の活動→送迎(15:40)→各家庭

4. 福祉体験実習・施設見学等の受入

新規学校卒業者の通所希望がなかったこと、コロナ禍の影響で感染が懸念されることを考慮し、実習や見学希望の連絡は頂いたが、計画する度に感染状況が重なり、受入れはできなかった。

5. その他

アルミ缶リサイクル活動の売上金については、利用者全員に 12 月のクリスマスプレゼントとしてバスタオルを配布した。

共同生活介護事業 事業報告

【総括】

チームとしての対応について

利用者に関すること、職員へのフォロー等はリーダーを中心に行うことができた。リーダーが現場職員の声を救い上げ、所長と協議し必要であれば、法人として対応する形で問題解決が図れた。

一方、以前より課題となっている夜勤者の負担減、夜勤者の増員に関して所長を中心に話し合いを行っているものの現実的な取り組みに至っていない状態である。各職員の意見はアンケートにて収集済みであるので、今後の取り組みを具体的に進めていくことが求められる。

ハックベリー・ベル間の連携について

現場の状況等はリーダーを中心に情報共有を行った。所長、リーダーを交えたミーティングを月1回開催し、情報の共有、必要事項の検討を行った。業務の標準化に関しては具体的な取り組みが進んでいない。特にコロナ対応に関しては両ホームで対応の差異があり、基本的な対応、ホーム事の個別で必要な対応を協議、共有する必要がある。

外出等の余暇について

室内でできるイベントを企画し楽しんでいただけるようにしている。土日などにおいては、買い物や散歩も行い、気分転換を離れるよう取り組んだ。また、少人数での外出の企画も立てたがホームでのコロナ陽性者発生などの状況も続き、頓挫している状態である。今後においては、少人数での外出を積みかさね、状況を見てホームでの外出企画につなげていきたい。

健康状態について

加齢にともなう体調変化や身体機能低下は年々顕著になっていると感じている。今までできていたことができない部分も多々みられ、介助する職員側にも介助方法の検討が必要となるケースもある。今後も年々変化がみられる身体状況を把握し、より安全な支援を心がけていきたい。

ご家族との連携

コロナ蔓延下の中でご家族との連携が十分にとれず、直接話をする機会は以前に比べ少なくなった。行動制限が緩和されつつある現状の中、少しずつ家族との話し合いの場を増やし、家族の思いを伺い、ホームでよりよい生活をどのように営んでいくのかを職員で話し合っていきたい。

ハックベリー総括

2022年度は、ホーム利用者のコロナ感染も経験し、利用者、職員ともに苦しい状況が続いた年度であった。日々の生活における楽しみなども制限された状態が続く中で、利用者の理解を得ながら小さな楽しみを見つけて耐え忍んだ一年であった。コロナ5類へ引き下げがあったが、感染状況を確認しながら、日々の生活の楽しみでもある外出、余暇活動の復活を目指していきたい。また、親なきあとの生活、入居利用者の看取りなど利用者の今後の人生をどう支えていくかということに職員の関心が高まっている。懇談をとおしてご家族様に意見を伺う機会も持った。ホームとしてどのような基本姿勢で取り組んでいくのか方向を固めていきたい。

1. 職員体制

管理者 1 名

サービス管理責任者 1 名（生活支援員兼務）

生活支援員 10 名（常勤兼務） 世話人 9 名（常勤兼務 6 名、非常勤 3 名）

ヘルパー派遣 36 名（サポートセンターめい）

2. 利用状況

入居定員 6 名 入居者（4 月～6 月） 5 名（7 月～3 月） 6 名

延べ利用人数 1,897 人（稼働率 86.6%） 営業日 365 日

3. 主な活動

1) 日中支援

- ・通所先との連絡調整、余暇支援調整、買い物外出支援
- ・往診医との連絡調整、専門医の通院調整

2) 余暇支援 室内イベント 個別外出

3) 避難訓練（短期入所事業との合同訓練）

11 月参加者 8 名（内、職員 3 名）（深夜想定訓練）

3 月参加者 7 名（内、職員 2 名）（深夜想定訓練）

4. 主な派遣研修・会議等

- ・ハックベリー職員会議（年 12 回）

5. アクシデント

・介護 4 件 ・服薬 3 件 ・物品管理 3 件 ・自傷 1 件 合計 12 件

*利用者誤嚥の可能性のあったアクシデントがあり、責任者への報告が遅れたこと、ご家族への報告、その後の対応が遅れたことがあった。アクシデントが発生した際、「大丈夫だろう」といったバイアスがかかってしまい報告が遅れたケースであった。トラブルがあった際に責任者への報告の徹底、早急な対応といった基本姿勢の再確認と徹底を来季の課題とする。

ベ ル総括

リーダーを中心としてチーム作りは十分に取り組めたと感じている。職員間の会話も増え、ベル事業所内の活気も感じられるようになった。様々な職員から意見を吸い上げ実践に結び付けることができていた。

しかし、一方では利用者と職員のトラブルも数回あり、虐待案件も発生した経緯もある。職員間で業務に対しての姿勢、利用者に対する接し方を今一度見直し、丁寧な支援につなげられるようにしていきたい。

1. 職員体制

管理者・サービス管理責任者 1 名（生活支援員兼務）

生活支援員 9 名（常勤兼務） 世話人 9 名（常勤兼務 5 名、非常勤 4 名）

ヘルパー派遣 35 名（サポートセンターめい）

2. 利用状況 入居定員 6 名 入居者 6 名

延べ利用人数 2,068 人（稼働率 94.4%） 営業日 365 日

3. 主な活動

- 1) 日中支援
 - ・通所先との連絡調整、余暇支援調整、買い物外出支援
 - ・往診医との連絡調整
- 2) 余暇支援 室内イベント 個別外出
- 3) 避難訓練 10月参加者 11名（内、職員 5名）（朝想定訓練）
3月参加者 10名（内、職員 5名）（朝想定訓練）

4. 主な派遣研修・会議等

- ・キャリアパス中堅職員研修（6月）1名
- ・OJTリーダー育成研修（10月～12月）1名
- ・モチベーションマネジメント(12月) 1名
- ・換気からみた新型コロナ対策(12月) 1名
- ・アンガーマネジメント(3月) 1名
- ・ベル職員会議（年 12回）

5. アクシデント

- ・服薬管理 10件（服薬抜け 1件 落下薬 6件 薬管理 2件 誤薬 1件）
- ・介護 7件（転倒 5件、怪我 2件）
- ・物品管理 14件（備品破損 3件 私物破損 5件 備品紛失 1件 私物紛失 2件
私物備品管理 1件 食品管理 1件 洗濯管理 1件）
- ・日程調整 2件（通院日間違い 1件、通所日間違い 1件） 計 33件

*服薬に関しては、落下薬が続いたことから主治医と相談し形状の変更を図る。現状は改善している。物品の扱いについては、あらゆる備品の経年劣化もみられ破損等がみられるようになっている。長く使用している備品に関しては入れ替えも視野にいれていかななくてはいけない。利用者個人の私物扱いに関し、馴れも生じ雑になりつつあるのではと感じる。個人の物の大切さを職員個々が再確認し、丁寧に対応していきたい。

居宅支援事業 サポートセンターめい 事業報告

【総括】

依然収束の見通しが立たないコロナ禍において、8月以降の第8波においては、ご利用者様、法人職員ともに感染者が多数発生、支援の変更や中止などの変更業務に追われた。

また、労働人口の減少から慢性的な人材不足からの脱却ができず、コロナ禍による混乱も要因とし、今年度計画していた、支援に携われる職員を計画的に拡充し引継ぎする、既存のご利用者からのニーズの掘り下げといった点は頓挫してしまった。

シェアハウスはなみずきにおける稼働率も横ばいのままの推移であったが、グループホームにおいて、新たなご利用者様を迎え入れた事、第8波以降は感染の拡大が収束しつつある事から、余暇支援を含む外出支援や居宅支援を概ね計画通りに提供でき、報酬としては前年度より増収となった。

所属職員がそれぞれに支援業務に携わるなかで、なかなか情報共有の場が持てないという課題について、前年度から事業所内でのグループラインでの共有、利用者情報・支援の変更についても共

有のシート上で共有を図り、一定の改善ができていたが、そこからの新たな改善については検討を進める事ができなかった。

また、男性職員が年々減少しており、男性職員への負担が増大している点、女性利用者の支援体制についても居宅支援の核となりえる職員が不在であり、支援の継続に困難が生じるケースなどもあり、次年度に向けて課題がある。

次年度からは新体制となる事もあり、上記の点において計画的に改善に向けて取り組んでいく必要がある。

1. 職員体制

管理者 1 名（兼務） サービス提供責任者 2 名

職員 48 名（常勤） 契約職員 3 名 登録ヘルパー 2 名 事務員 2 名（兼務）

2. 事業内容 居宅介護：重度訪問介護：行動援護：移動支援

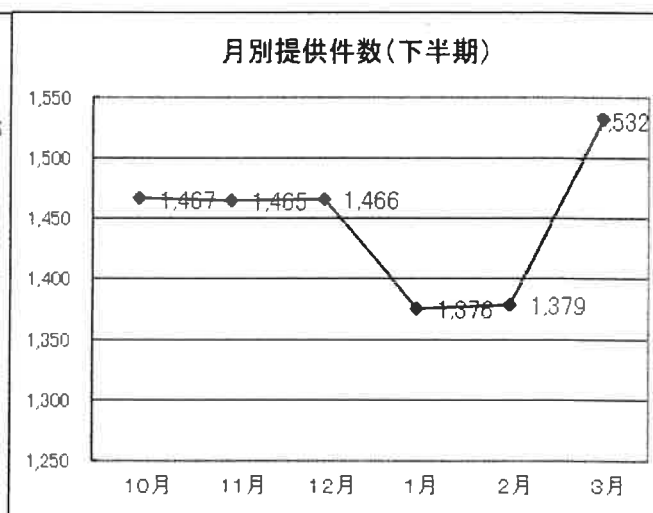
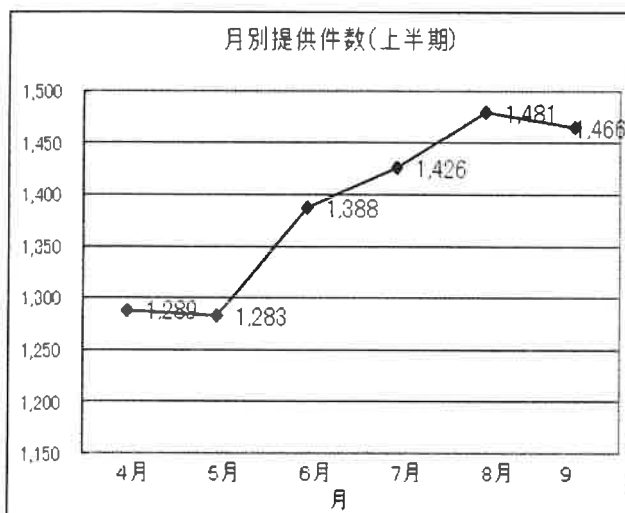
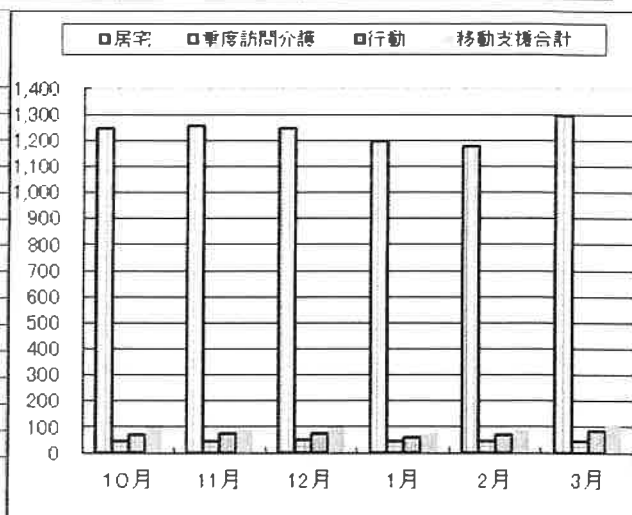
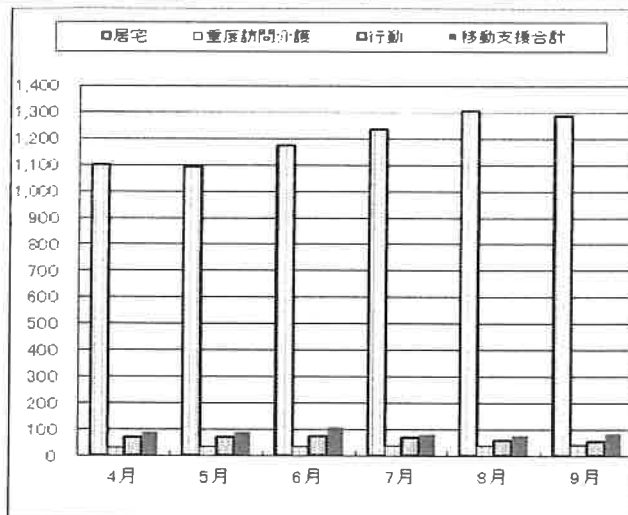
3. 利用者概要 登録 60 名（うち児童 0 名）

性別 / 年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	平均年齢
男性	1	6	6	11	4	0	38.2 歳
女性	0	10	9	8	4	1	36.9 歳
合計	1	16	15	19	8	1	37.5 歳

4. 居宅支援状況（支援時間数）

上半期		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	上半期
居宅介護		1,242.0	1,262.7	1,306.7	1,361.5	1,419.2	1,374.2	7,966.3
重度訪問介護		163.0	190.3	179.5	187.5	185.0	170.0	1,075.3
行動援護		197.2	201.8	239.1	205.5	198.3	155.4	1,197.3
移動 支援	身体有	249.8	203.3	285.2	203.7	198.8	190.0	1,330.8
	身体無	38.5	29.0	37.0	39.0	34.5	27.5	205.5
移動合計		288.3	232.3	322.2	242.7	233.3	217.5	1,536.3
総 合 計		1,890.5	1,887.1	2,047.5	1,997.2	2,035.8	1,917.1	11,775.2
下半期		10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	下半期
居宅介護		1,362.9	1,373.7	1,348.3	1,268.8	1,274.1	1,391.1	8,018.9
重度訪問介護		189.5	196.1	192.5	196.0	183.5	182.5	1,140.1
行動援護		233.7	231.4	222.5	169.4	202.1	324.5	1,383.6
移動 支援	身体有	230.1	203.1	236.5	142.4	206.8	262.6	1,281.5
	身体無	39.0	36.5	26.0	35.0	38.0	38.0	212.5
移動合計		269.1	239.6	262.5	177.4	244.8	300.6	1,494.0
総 合 計		2,055.2	2,040.8	2,025.8	1,811.6	1,904.5	2,198.7	12,036.6
								23,811.8

	居宅介護	重度訪問	行動援護	移動支援	総合計
2021年	15,064	2,146	1,997	2,540	21,747
2022年	15,985	2,215	2,581	3,030	23,812



障害程度区分による利用状況一覧

	居 宅 介 護				
区 分	児童	区分3	区分4	区分5	区分6
時間数	0.00	88.50	282.90	2,113.20	13,500.60
件 数	0	93	134	2,433	11,949
平均支援時間	0.00	0.95	2.11	0.87	1.13

	重度訪問介護			行動援護		
区 分	区分4	区分5	区分6	区分4	区分5	区分6
時間数			2,215.40	0.00	185.50	2,395.35
件 数			487	0	29	801
平均支援時間			4.55	0.00	6.40	2.99

5. アクシデント等

破損 0件	忘却 0件	紛失 1件	介護 1件
遅刻 2件	忘れ物 1件	転倒 3件	怪我 1件
調整 5件	苦情 2件		合計 16件

*今年度の総数は、昨年度からは減少しているが、同じご利用者様の行動援護の支援における転倒が3件見られている。その内1回はねん挫を発症されてしまい、以降徹底した再発防止の対策を講じている。遅刻、忘却といったヒューマンエラーも、前年度よりは減少しており、ヘルパー個々の意識の向上が見られている。

今後、居宅支援に従事できる職員総数の引き上げを目指し、より安定して支援を提供できるヘルパー体制の構築、サービス提供責任者を中心とした職員の育成、底上げ目指しアクシデント件数を継続して減少させていくことを目指す。

6. 主な派遣研修・会議等

○派遣研修

- ・京都市虐待防止・権利擁護研修（3月）1名
- ・京都府社会福祉法人経営者セミナー（1月）1名
- ・強度行動障害支援者養成研修（9月）3名
- ・サービス管理責任者更新研修（5月）1名

計6名

○法人職員研修（6月・3月）

○居宅会議（毎月1回）

7. レスパイト事業

①職員体制

○管理者1名 ○職員48名（正職員43名、契約3名、登録ヘルパー2名）

○事務員2名（兼務）

②事業内容

○タイムケア ○送迎 ○入浴 ○施設利用

③利用者概要（男性16名 女性22名） ※登録者46名（2023年3月末現在）

性別/年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	平均年齢
男性	0	3	3	9	1	0	39.5歳
女性	0	7	4	8	3	0	37.1歳

① 利用状況

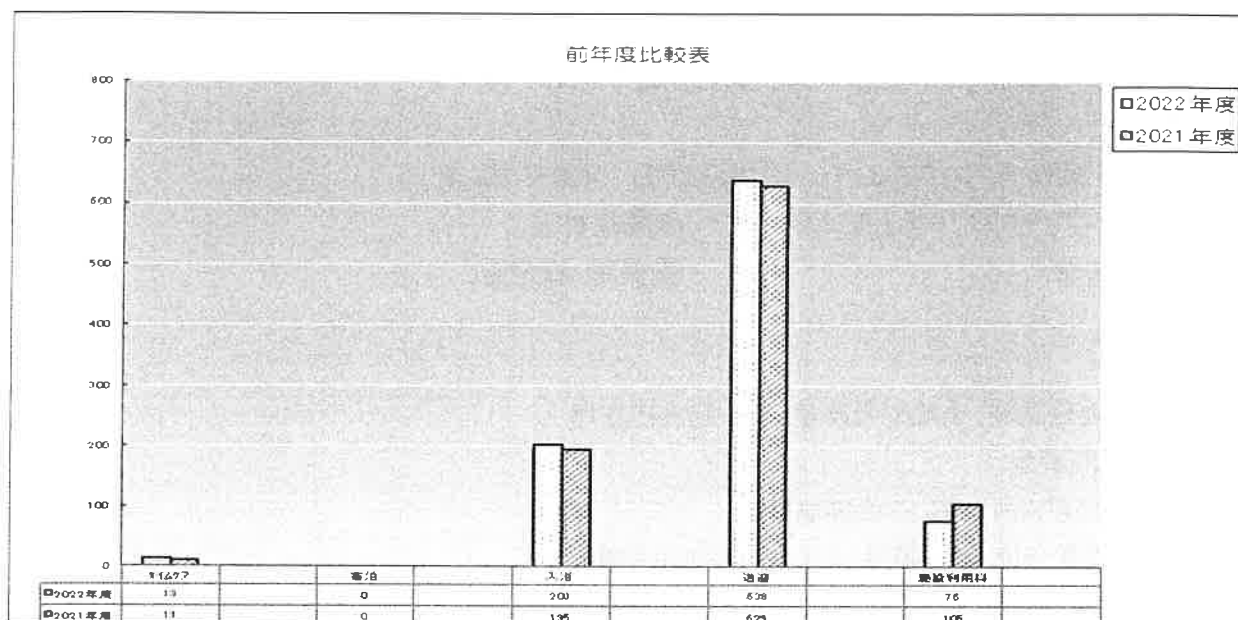
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
タイムケア	1	0	1	0	2	0	4	0	1	1	1	2	13
入浴	18	20	15	18	16	15	19	17	17	16	17	15	203
送迎	54	55	65	53	46	51	59	56	47	37	47	68	638
利用料	6	12	6	6	8	3	9	7	5	5	6	3	76
給食	0	0	0	2	1	1	2	2	2	2	1	0	13

* 自宅入浴が難しい方の入浴場として、また職場、病院、短期入所先への送迎等、主に公的制度では賄えないニーズに対して利用頂いています。

* 冠婚葬祭、家族の入院、ご本人又は介護者のリフレッシュ時にご利用頂いています。

年間件数

	タイムケア	入浴	送迎	施設利用料
2021 年度	11	196	629	105
2022 年度	13	203	638	76



共同住宅事業 シェアハウスはなみずき 事業報告

【総括】

開所2年目を迎え、現在入居されている3名のご利用者様におかれては、はなみずきでの生活にもすっかり順応され、思い思いの生活を送っていただけている印象である。

普段の生活のご様子からも、表情も明るく楽しそうにされている場面も多く見られ、関わらせていただいている職員とも関係性は日増しに強くなっていると感じている。

続くコロナ禍の中で、8月には利用者1名、9月には職員1名のコロナ陽性が確認され、隔離された非日常的な生活を余儀なくされたが、感染防止に最大限努め、必要な支援を提供しながら可能な限り日常に近い生活を送っていただけるよう努め、その後感染が拡大する事無く乗り越える事ができている。この経験は職員にも自信に繋がり、またご家族様との信頼関係をより強固にしていく上での一助になったのではないかと感じている。

職員体制について、9月に宿直業務に従事していた男性職員が退職、1月に補充として新規採用した職員も3月をもって退職となり、宿直業務に従事できる職員が不足しており、人材の確保は急務である。

一般住戸の2室について、問い合わせや入居希望の声は複数いただいております、その中でも1つのケースにおいては、長年えのき会をご利用いただいていた方の希望であり、地域にお住まいで住宅の確保に困

難を抱えておられ、何とか受け入れる事はできないものかと検討を重ねてきたが、人員体制が整わない事から受け入れる事ができなかった。

今後このような事例を生まないためにも、まずは安定的に支援を提供できる職員体制の構築を目標に、人材の確保と育成に力を注いでいきたい。

次年度に向けては、空床となっている一般住戸の満床を目指しながら、まずは受け入れる事ができる体制を整えていきたい。

1. 職員体制

管理者 1 名(兼務)

生活支援員(宿直者)4 名(兼務) 事務職員 1 名

2. 利用状況

入居定員 5 名(シェアハウス 3 戸・一般住戸 2 戸) 営業日 365 日

入居者(シェアハウス) 3 名(2022 年 4 月～)稼働率 68%

一般住戸 0 名

稼働率 算定無し

3. 主な活動

1) 日中支援

- ・通所先との連絡調整、余暇支援調整、買い物外出支援
- ・専門医の通院調整

2) 避難訓練(短期入所事業との合同訓練)

11 月参加者 5 名(内、職員 3 名)(深夜想定訓練)

3 月参加者 4 名(内、職員 2 名)(朝想定訓練)

4. 主な派遣研修・会議等

- ・はなみずき職員会議(毎月 1 回)

5. アクシデント

・介護 2 件(怪我 1 件、転倒 1 件)

・物損 5 件(私物破損 2 件 食器破損 3 件)

・失念 5 件(情報伝達漏れ 5 件)

・その他 5 件(衣類間違い 5 件)

合計 17 件

* 事業開始初年度からの件数としては減少している反面で、主に情報の伝達・共有が十分でなかった事に起因するアクシデントが複数発生している。

また、ご利用者様の物品の管理について、アクシデントには至らないものの、インシデントとしての衣類の間違いや備品の破損といった事は散見しており、これらの点については、より意識を持って改善に取り組んでいかなければならない。

また、介護面では体調不良を伴う緊急対応などが複数あったが、いずれも速やかに関係者への報告、医療機関への受診など対応が取れている。

今後について、先にも挙げた通りに、情報の伝達と共有についての課題があり、周知事項の確認、徹底できていない事が複数見られており、この点について、関係職員 1 人 1 人がより意識を持って改善に努めていかなければならない。

短期入所事業 サポートセンターえのき 事業報告

【総括】

利用登録者は21名で、共同住宅へ入居された方の利用が無くなったため、前年度より3名減少した。利用総数365人のうち、区分6が57%をしめ、区分5が35%、区分4が8%となっている。今期はコロナ感染症の影響で利用を控える方が多く、複の家での発症者もあったことが影響し、2回受入れを自粛する期間もあり、例年を下回った。そうしたなか、後期になり1名の新規利用を開始することができた。利用総数としては、今後とも支援体制の関係上、現状を維持することになる。

1. 職員体制

管理者1名 生活支援員15名(常勤兼務)

2. 利用状況 利用定員4名

延べ利用人数365人 延べ利用回数184回 一日平均1.0人 実人員20人

(昨年度延べ利用人数432人 延べ利用回数205回 一日平均1.2人 実人員23人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期計
利用人数	45	29	35	26	22	24	181
利用回数	22	14	17	13	11	12	89
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期計
利用人数	26	30	32	30	36	30	184
利用回数	13	16	16	16	19	15	95

3. アクシデント

・アクシデントの発生はなかった。

特定相談支援護事業 えのき 事業報告

1. 職員体制

管理者1名 相談支援専門員2名(兼務)

2. 利用状況(年間)

実利用人数 45人(内、3人新規契約、1人契約解除)

- ・日常生活全般に関する相談 23件
- ・地域の障害福祉サービス事業所等の情報提供 2件
- ・指定計画相談 46件(内、計画変更 1件含む)
- ・モニタリング 42件

3. 主な派遣研修・会議等

- ・法人職員研修、法人職員会議(6, 3月)
- ・計画相談策定のためのカンファレンス開催
- ・今後の生活に向けたカンファレンス開催
- ・相談支援スキルアップ研修

